NISSAN GLOBAL FOUNDATION

公益財団法人

日産財団

2015年度 活動報告書

ビジョン

未来に夢を持てる社会の実現をめざし、人財育成に貢献します。

ミッション

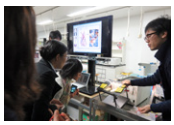
1. 科学の芽を育む教育実践を支援し、理科教育の振興に貢献します。
2. 未来を豊かにする先端科学と教室を結ぶ場を提供し、科学・技術に興味を持つ子どもの育成に貢献します。
3. 逆風に立ち向かい変革を起こし、次世代を担っていくことのできる真のリーダーの育成に貢献します。
4. 未来の持続的成長を担う学生に対し、国際交流・企業体験の機会を提供し、実践的社会人となるための能力の育成に貢献します。

すべての活動において、社会と連動・協働し、成果を共有していきます。

日産財団の活動

理科教育助成 …… 3

子どもたちの科学的思考能力を高める取り組みを支援します。



わくわくサイエンスナビ …… 7

小中学校の先生に最先端科学の「わくわく」を実感していただきます。

理系女子育成助成 …… 9

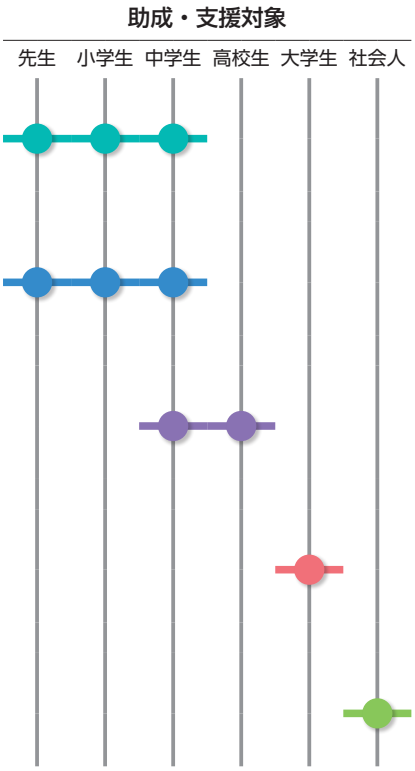
女子の「理系に進学したい」という意欲を支援します。

日米グローバルリーダー育成助成 …… 10

日米の次世代グローバルリーダーを育成するプログラムを支援します。

逆風下の変革リーダーシップ養成講座 …… 11

逆風下で力を発揮する真のリーダーを養成します。



ごあいさつ

理事長　志賀　俊之

公益財団法人日産財団は1974年に日産自動車により設立され、以来40年にわたり科学技術振興と人材育成のための助成を重ねてまいりましたが、科学技術振興の社会インフラが往時にくらべて充実してきたことを踏まえ、2011年の公益財団法人への移行を契機に、名称を「日産科学振興財団」から「日産財団」に変更し、活動の重点を人材育成に移行いたしました。

2014年度に開始した、変化の激しい経営環境下で変革を主導する次世代リーダーを育成するためのプログラム「逆風下の変革リーダーシップ養成講座」は2015年度にさらなる充実化をはかりました。従来の早稲田大学と米国ペンシルバニア大学ウォートンスクールの２校との連携に加え、IMD（International Institute for Management Development）とも連携し、年２回の開催としました。

また、小中学校の教員を対象に最先端科学研究施設の見学・研究者との直接対話の場を提供し、教室での理科学習が最先端科学につながっていることを子どもたちに実感させることを目的とした「わくわくサイエンスナビ」の開催は2015年度で２年目を迎えました。

さらに2015年度は、女子中高生の理工系大学への進学意欲を高めるための活動を展開している大学や研究機関を支援する「理系女子育成助成」を実施しました。

従来の「理科教育助成」も助成校に全校訪問するなどし、一層の強化をはかっています。

今後も日産財団は人材育成を活動の軸にして、社会への貢献をめざしてまいります。

日産財団の活動報告

理科教育助成

子どもたちの科学的思考能力を向上させる教育実践や教師の理科指導力を向上させる授業研究を行う小中学校、研究会などへの助成です。対象地域は神奈川県、福岡県、栃木県、福島県で、教育委員会のご協力を得て毎年30件以上に対し助成をしています。助成金額は１件あたり２年間で60万円です。2004年度からの12年間で助成件数は613件、助成金総額は2億円を超えています。

理科教育賞

子どもたちの科学的思考能力や教師の指導力を向上させる教育実践において多大な成果をあげ、かつ成果の波及効果が期待できる実践に「理科教育賞」を贈呈しています。とくに２年間の実践により学びの質がいちじるしく向上したと判断した実践を「大賞」として表彰します。理科教育賞は、各県から１校ずつを選出し、その中の１校に大賞を贈呈します。また2015年度から「ポスターセッション」を実施し、参加者の投票により表彰を行いました。

賞金：理科教育賞 大賞100万円、理科教育賞50万円、理科教育賞ポスターセッション20万円

第３回　理科教育賞贈呈式

助成対象者一覧

2014年度　助成件数：32件　助成金総額：1,940万円

対象期間：2015年1月1日～2016年12月31日

所属機関名	テーマ
神奈川県：件数11件　助成金総額：770万円	
■横浜市	
横浜市立元街小学校	自ら考え、共に解決する楽しさのある授業をめざして
横浜市中学校教育研究会理科部会	自然の事物・現象に主体的に関わり、探求する能力を育む理科教育
横浜市立権太坂小学校	見通しをもって問題解決に取り組む理科学習
横浜市立三保小学校	持続可能な社会づくりを担う児童の育成 ～ESDの研究と実践～
■横須賀市	
横須賀市立坂本中学校	子どもの自然事象への感性を育てる理科学習指導
横須賀市小学校理科研究会	自ら自然にはたらきかけ、新たな知を創り出す理科学習
■厚木市	
厚木市立上荻野小学校	問題解決能力と自然を愛する心情を育てる学習環境の創造
■伊勢原市	
伊勢原市立桜台小学校	児童が主体的に取り組む理科学習指導法
■平塚市	
平塚市立中学校教育研究会技術科部会	ものづくりを通して意欲や科学的思考力の向上をめざす指導の工夫
■秦野市	
秦野市立東中学校	科学的思考力を育てる理科教育
■座間市	
座間市立相武台東小学校	心豊かに生き生きと活動する子をめざして
福岡県：件数7件　助成金総額：490万円	
■福岡県	
嘉麻市立稲築東小学校	自然を愛し、生命あるものを尊ぶ心を育てる体験活動の創造
苅田町立片島小学校	科学的に思考し、表現する力を育てる理科・生活科学習指導の研究
みやま市立清水小学校	自然に働きかけ，創造性を培う理科教育
■福岡市	
福岡市立香椎小学校	学ぶ喜びを味わい，確かな力が育つ指導法の研究 ～ものづくりを通して～
福岡市立笹丘小学校	自然の良さを感じ，考える力を育む生活単元・生活科・理科の学習指導法の研究

所属機関名	テーマ
■北九州市	
北九州市立東朽網小学校	ロボット製作のものづくりや問題解決学習を通して科学的な興味・関心を高める理科学習指導
北九州市立企救中学校	主体的な探究活動を通して、科学的な思考力・表現力を育てる学習活動の創造
栃木県：件数4件　助成金総額：280万円	
■栃木県	
那珂川町立馬頭小学校	ふるさとの自然に気付き、感じ、考え、実感する理科学習
宇都宮市立豊郷中学校	豊郷地域学校園の地域人材を生かした理科教育の推進
下野市立石橋北小学校	科学的な思考力を育てる授業の在り方
栃木市立栃木第四小学校	理科・生活科授業を通して行う人間関係づくり
福島県：件数10件　助成金総額：400万円	
■福島県	
南会津町立荒海中学校	理科の系統性を生かし、実感を伴った学びを目指す理科学習
会津若松市立謹教小学校	学び合い、高め合う授業の創造
福島市立岡山小学校	学ぶ喜びを実感できる理科・生活科授業の創造
白河市立白河第二中学校	科学的思考力を育てる学習指導
須賀川市立白方小学校	持続可能な社会づくりに貢献できる人材の育成
■いわき市	
いわき市立中央台南中学校	科学分野で活躍する人材となることを目指す生徒の育成
いわき市立小名浜第一小学校	科学的な判断力を身に付けた子どもを育てる理科学習指導の工夫
いわき市立御厩小学校	自然の不思議に気づき、主体的に学び、実感できる授業の工夫
いわき市立田人小学校	自分事として問題を解決するための科学的な思考力の育成
いわき市立小名浜第一中学校	環境やエネルギー問題について探究する能力を育む指導の工夫

2015年度　助成件数：31件　助成金総額：1,860万円

対象期間：2016年1月1日～2017年12月31日

所属機関名	テーマ
神奈川県：件数12件　助成金総額：720万円	
■横浜市	
横浜市立白幡小学校	共に学ぶ楽しさに触れながら、汎用的な能力を育成する理科学習
横浜市立鳥が丘小学校	わくわくビオトープ～校内ビオトープから自然との出合わせ方を工夫する～
横浜市立井土ヶ谷小学校	自然を読み解く表現と学び合い
横浜市立戸塚小学校	意欲をもって主体的に取り組み、互いに学び合う子どもの育成
■横須賀市	
横須賀市立公郷中学校	理科におけるユニバーサルデザインとアクティブラーニングの融合
横須賀市立野比小学校	子どものおもいに寄り添った主体的な問題解決の授業づくり
■厚木市	
厚木市立戸室小学校	10分間で描く観察画の指導法と教材提示方法の開発
■伊勢原市	
伊勢原市立竹園小学校	児童が意欲的に取り組む理科指導
■平塚市	
平塚市立南原小学校	確かな学力を身につける子どもの育成
■秦野市	
秦野市立南小学校	地域の自然や人と関わる中で、主体的に学ぶESDの推進
■座間市	
座間市立東中学校	一人ひとりに確かな学力を育むユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり
■相模原市	
相模原市立上溝南小学校	自己実現していく子どもの育成
福岡県：件数7件　助成金総額：420万円	
■福岡県	
遠賀町立島門小学校	自然に興味・関心を持ち続け、主体的に追究する生活科・理科学習の在り方
糸島市立加布里小学校	科学的な思考力を育てる理科学習指導
大刀洗町立大刀洗中学校	主体的に学び続ける生徒を育む理科学習指導の展開

所属機関名	テーマ
■福岡市	
福岡市立横手中学校	ホンモノに触れる学習を通して、科学を自ら学ぼうとする意欲を育てる授業の実践を目指す
福岡市小学校理科研究会	納得のいく考えをつくる理科学習指導法の研究
■北九州市	
北九州市立祝町小学校	PDCAサイクルを基盤とした自律型ロボットプログラミング学習の試み
北九州市小学校理科教育研究会	見通しをもって観察、実験を行い、思考・表現しながら科学的な見方や考え方を深める理科学習
栃木県：件数4件　助成金総額：240万円	
■栃木県	
宇都宮大学教育学部附属小学校	子ども主体で問題解決ができる理科授業
鹿沼市立上南摩小学校	ICTを活用した科学的な思考力・表現力の育成
栃木県小学校教育研究会宇都宮支部理科支部部会	科学的な思考力の育成を目ざした授業の展開
栃木県小学校教育研究会足利支部理科部会	科学の心で自然を見つめ、未来をつくる理科学習
福島県：件数8件　助成金総額：480万円	
■福島県	
南相馬市立太田小学校	自ら自然にはたらきかけ，感じ，考え，実感できる理科学習の充実
相馬市立向陽中学校	科学的思考能力が向上する指導方法の工夫と実践 ～ICT機器の活用をとおして～
浪江町立浪江中学校	自ら学ぶアクティブ・ラーニングによる理科好きな生徒を育てる授業
■いわき市	
いわき市立湯本第一小学校	科学的な思考力を高める理科学習指導の工夫
いわき理科教育研究会	理科授業における小学校教員の指導力の向上を図る授業支援事業
いわき市立藤間中学校	生徒一人一人が意欲をもって探究し、学び合い、表現できる指導法の工夫
いわき市立好間第二小学校	主体的に自然事象にかかわり、科学的な思考力を育てる授業の在り方
いわき市立湯本第一中学校	発表・討議を取り入れた学習指導の工夫

理科教育助成対象校・団体の活動の紹介

福島県　南会津町立荒海中学校

理科の系統性を生かし、実感を伴った学びを目指す理科学習

1年生の「物質の姿と状態の変化」の授業では、風船の状態の変化を粒子モデルを使って討議

小学校および中学校を通して「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」を柱とする内容の、系統性を生かした指導を計画しました。とくに「粒子」に関して、それまで学習した内容をどのように捉えているかを生徒一人ひとりに意識させ、自然事象から自分で課題を見いだし、自分なりの予想や仮説をもち、いままでの学習と関連させて考察する、実感を伴った授業をめざしました。

科学的な見方や考え方が育成された姿として、仮説、予想、考察を統一的な根拠をもって答えることができ、また、粒子のモデルを使って科学的に説明できる生徒の育成をめざしています。

授業研究会では、参加した先生の授業に活かせる「ミニ講習会」も実施

福島県　いわき市立田人小学校

自分事として問題を解決するための科学的な思考力の育成

6年生、「水溶液の性質とはたらき」の授業で、リトマス紙を使って水溶液を仲間わけ

福島県は、東日本大震災によるさまざまな問題などに直面する経験をしてきました。それだからこそ、子どもたちが10年、20年後に自ら見出す問題を自分事として捉え、論理的に思考しながら解決に向かっていく力を理科の授業で育むべきではないかと考えました。

子どもたちが問題を解決しようとする過程の中で、とくに「予想・仮説」を立てる場面や、「観察・実験の結果」を考察する場面において、一人ひとりの目に見えにくい思考や内面の変容を顕在化できるような手立てを講じることで、子どもたちの科学的な思考力を育んでいくことをめざしています。

3年生、「物の重さをくらべよう」の授業で、同じ体積の塩と砂糖の重さくらべ

栃木県　那珂川町立馬頭小学校

ふるさとの自然に気付き、感じ、考え、実感する理科学習

3年生、「電気で明かりをつけよう」の授業で、鉄製プリップ、アルミ缶、1円玉、割り箸など13種類のものと豆電球を使って、電気が通るかを調べて分類

自然環境に恵まれているにも関わらず、ふるさとの自然のよさに触れたり、感じとったりすることが少なくなってきています。

生活科や理科の学習を通して、自分たちを育んでいる自然に対する興味・関心を高め、科学的な思考力を育成することをめざしました。そして、自然の法則や精妙な事象について知る活動を通して、あらためて自然のすばらしさ、郷土のすばらしさを実感させようとしました。その活動を通して自尊感情を高め、情緒豊かな人格の育成と自然と共生していこうとする児童を育成していくことをめざしています。

「電気を通すものには金属の部分がある」などとまとめ

神奈川県　横浜市立元街小学校

自ら考え、共に解決する楽しさのある授業をめざして

1年生、「きせつのちがいはっけんたい」の発表

これまで、算数科（2011年度～2013年度）で、子どもが自ら考え、共に解決する楽しさのある授業づくりについて研究を進めてきました。これまでに身に付いた算数科学習の問題解決学習の成果をベースに、一人ひとりがより問題意識をもって学習に取り組むことで、子どもが学ぶ楽しみを感じることができるだろうと考えました。

そのために学校や学校周辺の環境を生かし、身近な生活環境に目を向けて、自然事象から子どもが問題（疑問）を見出し、予想を立てて観察・実験し、結果の整理から考察し、結論に結ぶという問題解決能力の向上がなされるように、また、さらなる教師の指導力向上をめざし、理科と生活科の授業を中心に研究を進めています。

5年生、メダカのオス・メスのちがいを観察する授業

横須賀市立野比小学校で開催された第37回神奈川県小学校理科教育研究大会（横須賀地区大会）

神奈川県　横須賀市小学校理科研究会

自ら自然にはたらきかけ、新たな知を創り出す理科学習

横須賀市小学校理科研究会は、問題解決の活動を通して獲得すべき基礎的・基本的な知識や技能を、実感を伴った理解へ深めていくため、「実体験を重視した身近な自然現象との出会い」「問題解決学習の追究を行う」「生活への帰着」の3つの柱と視点を注視しました。

一人ひとりの児童がどのような知や力をどのようにつくりあげていったのかを見る方法として、目標分析表を活用しました。

また、新採用教諭が増える中で、理科教育の基礎基本について、授業を通して語り合いながら、子ども主体の理科学習のあり方や指導法について実践的かつ系統的に研究に取り組みたいと考えています。

理科の公開授業を実施

福岡県　北九州市立東朽網小学校

ロボット製作のものづくりや問題解決学習を通して科学的な興味・関心を高める理科学習指導

3年生の授業「ゴムや風でものをうごかそう」を題材とした校内授業研究会

ロボット導入のものづくりによって、科学の実感を伴った理解と生活への結びつきを深める学習活動を展開し、科学への理解を促し、科学技術の重要性を伝えることをめざしました。

また、テーマをもってチームで問題を解決していく科学プログラムによって科学的な見方・考え方を体験の中で身につけさせ、思考力、実行力を高め、理科を追究する楽しさを提供することをめざしています。

グループごとに帆を工夫してより遠くまで進む車を準備し、走行距離を比較

わくわくサイエンスナビ

「より多くの子どもたちに科学のおもしろさ・大切さを伝えたい」という思いで、小中学校の先生に最先端研究のわくわくするような躍動感を体験していただくプログラムです。

プログラムの流れ

小中学校の先生たち参加者が、１日で、最先端研究施設の見学、研究者との対話、オリジナルのサブテキストを使用したワークショップに臨みます。そして、そこでの“わくわく体験”を、学校などの教育現場に持ち帰り、子どもたちに伝えます。

1 研究施設の概要や研究の解説を聴く

2 最先端研究施設を見学する

3 研究者と対話する

4 ワークショップで授業案づくりに取り組む

5 配布サブテキストなどを用いながら学校で“わくわく体験”を子どもたちと共有する

プロジェクトリーダーのメッセージ

「ふしぎだな」「なぜ、どうして？」「やってみよう！」という心をもっているのは、子どもも科学者も同じです。
科学者のわくわくを先生方にまず実感していただき、子どもたちのわくわくを伸ばしていただければと思います。

美馬　のゆり

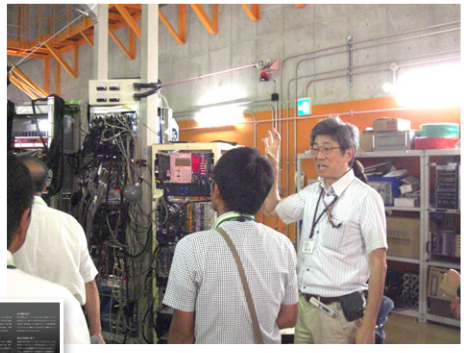
日産財団理事　公立はこだて未来大学教授
専門は認知科学、学習環境デザイン、科学コミュニケーション

2015年度開催の「わくわくサイエンスナビ」

第１回　理化学研究所仁科加速器研究センター

2015年８月３日（夏休み）

理化学研究所で、約4000種類の不安定原子核をつくることのできる理化学研究所の巨大装置「RI（Radioactive Isotope）ビームファクトリー」を見学し、装置を日ごろ扱っている研究者と対話しました。RIビームファクトリーは「113番元素」（ニホニウム）の生成に使われた装置でもあります。ごく小さな原子核の構造を解明するのに使われる加速器などの大きさに、多くの先生たちが驚いていました。



「RIビームファクトリー」内部で、研究者の説明を受けながら見学

サブテキスト
『私たちの体は宇宙からやってきた！』を配布

第２回　東京大学生産技術研究所

2016年１月６日（冬休み）

東京大学駒場第二キャンパスにある生産技術研究所で、建築や構造をテーマとする研究者たちの説明を聞き、対話をしました。少ない骨組で安定性を保てる「テンセグリティ」という建築構造が生物の細胞にも見られることや、また、古い町並みや風景はその土地の気候などの自然条件により必然的につくられていくといった研究者たちの話を、先生たちは熱心に聞いていました。そして、家や住まいに関する感動や気づきを子どもたちに伝えるための授業案をつくるワークショップに臨みました。

ワークショップで授業案をつくるために話し合い

サブテキスト
『私たちには家を作る知恵がある！』

第３回　早稲田大学先端生命医科学センター

2016年３月28日（春休み）

早稲田大学先端生命医科学センター（TWIns）で、工学と医学の連携により実現するイノベーションを実感しました。拍動する心臓を再現した血管・冠動脈縫合訓練装置や、皮膚の感触まで人を模した気道確保訓練ロボットなどを見て触れて体験しました。また研究者から、ロボットに喜びや嫌悪などの情動を方程式により表現するためのモデル化の例なども聞きました。

ロボット工学の研究者と対話

サブテキスト
『私たちの未来はロボットと共にある！』

理系女子育成助成

女子の理工系大学への進学意欲を高めるため、女子中高生対象の活動を展開している大学や研究機関に支援をします。女子中高生に対して理系分野への興味を喚起するような事業を助成します。

2015年度の理系女子育成助成

理化学研究所仁科加速器研究センター

元素・原子・素粒子の世界を覗いてみよう！　［2015年８月29日］

女子高生たちの参加者に、巨大装置「RIビームファクトリー」を実際に見学してもらうほか、アイロンビーズを使って「113番元素をつくる」体験をしてもらいました。参加者たちからは「世界最先端の装置を間近で見られて貴重な体験ができた」「113番元素がどういうものかを“自分で作る”ことによっておもしろく理解できた」などの感想がありました。

理化学研究所内の巨大な加速器を見学

核図表の前で原子核のつくられ方について説明を受ける

東京大学生産技術研究所次世代育成オフィス

女子中高生のみなさん、最先端の工学研究に触れてみよう！　［2015年11月21日］

中学校・高校で学習する数学や物理と、大学で研究する工学の結びつきなどを研究者が講義しました。また、研究室の見学や大学院生との交流会も行われました。女子中高生、保護者、教員合わせて計50名の参加者となりました。また、同オフィスが実施した産学連携での出張授業や、生産技術研究所に女子高生を招いての依頼授業、ウェブコンテンツの取り組みへの助成も行いました。

東京大学生産技術研究所の研究者が女子中高生に語りかけ

女子高生たちと若手女性研究者たちとのパネルディスカッション

日米グローバルリーダー育成助成

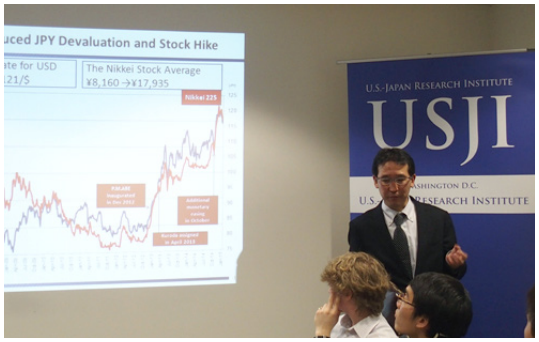
日米の将来を担う次世代グローバルリーダーを育成するためのプログラムへの助成をしています。日本国内５大学が2009年４月に米国ワシントンDCに設立した非営利団体「日米研究インスティテュート（USJI: U.S.-Japan Research Institute)」が現地で実施する、日本人留学生と日本に興味をもつ米国人学生向けの講座を支援しています。

2015年度開催の講座

ワシントンDCにて、下記の各テーマで計９回の講座を開催し、参加学生数は日米合わせて約190名にのぼりました。

第１回	Politics of Asian Development Governance: AIIB, ADB and US-Japan-China Relations	［2015年４月21日］
第２回	USJI Student Branch Kick-off meeting	［2015年９月９日］
第３回	How Abenomics and TPP are Advanced	［2015年９月14日］
第４回	World War II and the Experience of Japanese Americans	［2015年９月15日］
第５回	USJI Students Branch 第２回 Kick-off meeting	［2015年９月22日］
第６回	USJI Students Branch 研究発表	［2016年２月22日］
第７回	Election Campaigning: Japanese-style versus American-style	［2016年２月24日］
第８回	US-Japan Relations in Geo-Economic Regionalism in Asia: The Rise of the TPP and AIIB	［2016年２月29日］
第９回	CSPC International Students への日系人の経験紹介セミナー	［2016年３月21日］

勉強会形式の講座でのディスカッション



多彩な講師陣によるレクチャー形式の講座

逆風下の変革リーダーシップ養成講座

社会をとりまく諸課題に対して立ち向かい、成果を生み出すことのできる真のリーダーを養成するためのプログラムです。ケースメソッドやレクチャーで得られた気づき、知識、経験を、受講者の所属する企業で活用し、変革を実践していただくことをめざしています。経営改革を断行し、持続的成長を遂げている日産自動車の実践的事例を題材としたケースメソッドと、経営学の観点でリーダーシップの要諦を研究している研究者たちの理論のレクチャーの両面から、相乗効果的に変革を起こせるリーダーシップを学んでいきます。

経営トップとの直接対話で、逆風下におけるリーダーシップのとり方を習得することができる

本講座の3つの特長

1. 一流ビジネススクールの知見を学ぶことができる。
2. 経営者自身の生きたノウハウを得ることができる。
3. グローバルリーダーになるための今後の方向性を明確化できる。

2015年度開催の講座

第１回　IMD、早稲田大学ビジネススクール、日産自動車の連携による講座

2015年９月28日～10月２日

世界的に評価の高いビジネススクールとして知られるIMDと早稲田大学ビジネススクール、日産自動車の連携による講座に約30名の受講者が集いました。有名企業の具体的事例などを題材として、グローバルリーダーシップの実践法などを習得しました。

IMD講師の講義を熱心に聴講

企業などにおける具体的事例を
題材に議論を深める

第２回　ウォートンスクール、早稲田大学ビジネススクール、日産自動車による講座

2016年12月14日～18日

1881年創立の米国トップランクのビジネススクールであるペンシルベニア大学ウォートンスクール、早稲田大学ビジネススクール、日産自動車の連携で、約30名の受講者が参加しました。経営理論に基づいた講義で、変革を起こすためのリーダーシップの養成をはかりました。

受講者が積極的に質問

カルロス・ゴーン氏と質疑応答

講　師

The Wharton School of the University of Pennsylvania

Prof. Harbir Singh　PhD, University of Michigan

- Mack Professor of Management
- Co-Director : Mack Institute for Innovation Management
- Vice Dean : Global Initiatives

Prof. Michael Useem　PhD, Harvard University

- William and Jacalyn Egan Professor of Management（Leadership & Change Management）
- Director：Wharton Leadership & Change Management
- Editor：Wharton Leadership Digest

Assoc. Prof. Saikat Chaudhuri　PhD, Harvard University

- Associate Professor of Management
- Executive Director : Mack Institute for Innovation Management
- Interim Director : Jerome Fisher Management & Technology Program

IMD（International Institute for Management Development）

Prof. Martha Maznevski　PhD, Richard Ivey School of Business, University of Western Ontario

- Professor of Organizational Behavior and International Management
- カナダ国籍

Prof. Cyril Bouquet　PhD, Richard Ivey School of Business, University of Western Ontario

- Professor of Strategy
- フランス／カナダ国籍

早稲田大学ビジネススクール

太田　正孝 教授　博士（商学）

- 早稲田大学大学院商学研究科長、早稲田大学常任理事（教務・国際担当）を経て現職
- 早稲田大学商学学術院教授
- 早稲田大学アジア・サービス・ビジネス研究所所長

池上　重輔 准教授　英国ケンブリッジ大学MBA

- BCG、マスターフーズ、ソフトバンク、ニッセイキャピタル等を経て現職
- EUビジネスマン日本研修プログラム（ETP）アカデミック・コーディネーター

日産自動車

カルロス・ゴーン　日産自動車　会長兼社長、最高経営責任者（CEO）

- フランス国立高等鉱業学校工学部学位取得、卒業
- ブラジルミシュランおよび北米ミシュラン取締役社長などを経て、現在、日産自動車株式会社 取締役会長兼社長および最高経営責任者、ルノー取締役会長および最高経営責任者

志賀　俊之　日産財団　理事長、日産自動車　代表取締役　副会長

- 大阪府立大学経済学部卒業後、日産自動車株式会社入社
- 同社企画室長およびアライアンス推進室長、常務執行役員、最高執行責任者などを経て、現在、同社代表取締役副会長および日産財団理事長

役員・評議員、選考委員名簿

役　員

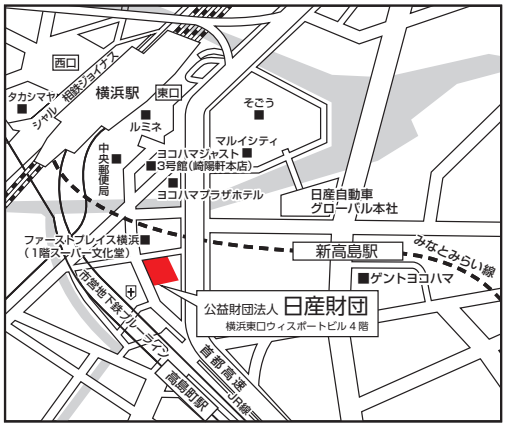
理 事 長	志賀　俊之	日産自動車(株)　副会長
副理事長	久村　春芳	日産自動車(株)　フェロー
常務理事	原田　宏昭	公益財団法人日産財団　常務理事
理　　事	齋藤ウィリアム浩幸	(株)インテカー　代表取締役
	田嶋　　潔	フジサンケイグループ事務局　部長
	根来　龍之	早稲田大学商学研究科(MBAコース)　教授
	美馬のゆり	公立はこだて未来大学　教授
監　　事	太田　建司	公認会計士
	久保　英明	日産自動車(株)グローバル内部監査室 チーフインターナルオーディットオフィサー

評議員

評 議 員	加藤　　毅	筑波大学　准教授
	黒田　玲子	東京理科大学　教授
	島田　京子	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団　専務理事
	羽鳥　賢一	慶應義塾大学　特任教授
	土井　三浩	日産自動車(株)総合研究所 アライアンスグローバルダイレクター
	濱口　貞行	日産自動車(株)グローバルコミュニケーション本部 グローバル企業広報部　部長

選考委員

選考委員長	西本　清一	京都市産業技術研究所　理事長
選 考 委 員	加藤　圭司	横浜国立大学　教授
	千葉　養伍	福島大学　教授
	人見　久城	宇都宮大学　教授
	森藤　義孝	福岡教育大学　教授



公益財団法人
日産財団
NISSAN GLOBAL FOUNDATION
ひとを育て、未来に夢を…

〒220-0011
横浜市西区高島2-6-32　横浜東口ウィスポートビル4階
TEL 045-620-9780 / FAX 045-620-9781
ホームページ：http://www.nissan-zaidan.or.jp/